
平和台団地と電々団地

旧平戸町は戸塚町・名瀬町に次いで戸塚で区内3番目の面積を持っている。

そんなこともあり旧平戸町は昭和57年（1982年）平戸町北東部を平戸1丁目～5丁目を分離する形で住居表示の変更を実施した。

現在区内で丁目制を敷いているのは汲沢・原宿・南舞岡・そして、この平戸の4地域だけで他の地域では昔ながらの町名制を敷いている。

住居表示を変更した旧平戸町であるが面積的には新平戸町が1.74平方キロメートルで1丁目から5丁目までの部分の合計1.12平方キロメートルを上回っている。

住居表示の区割りをするに当たっての理念は丁目を敷いた地域の歴史的背景を考慮したものと思われる。

すなわち1丁目から3丁目における歴史、4丁目と5丁目の歴史が、その決め手になったと推定される。

まず1丁目から3丁目であるがこの地域は昭和30年代から人口が増え始め昭和39年に平戸平和台町内会を立ち上げた。そのため、国道1号線のバス停名にもあるようにこの地域を通称「平和台」と称している。

戸塚区の最東端に位置するこの地域は北を保土ヶ谷区、東を南区に接している。

あまり広くない地域でありながらそういう背景から学区はかなり複雑である。

小学校学区は、平戸小学校・境木小学校・南区の六ツ川小学校の3校に、中学校学区は、境木中学校、南区の六ツ川中学校となっている。

学校について以前から疑問に思っていることがある。

それは境木小学校と境木中学校である。

境木というのは平和台の北、保土ヶ谷区に属する町である。にも拘らずこの二つの学校の所在は境木でなく平戸三丁目にあるのである。

これはどういうことであろうか。

学校名はその所在する地域名を冠するのが一般的である。

その伝でゆけば平戸北小学校あるいは平戸北中学校が妥当な学校名であろう。

しかし、そうならなかったのはたぶん、地名の由緒にその原因があったのではなかろうか。

つまり境木というのは江戸時代から東海道のメジャー的地名であるところから平戸より名声が高いということがこんなチグハグなことになったのでなかろうか。

次に、平戸4丁目と5丁目であるがこの地域は通称「電々団地」としている。

「電々」少し説明を要する。

「電々」とは日本電信電話会社の略称で今のNTTのこと。

この「電々団地」は、北の「平和台」と同じころNTTが開発した団地で住民の多くはNTT関係の人達であったが長い歴史の中で売買等により今はNTTに関係の無い住民も多い。

この団地ができたころ、通勤者は国道1号線に出て保土ヶ谷駅・上大岡駅・戸塚駅などへバスで行くしかなかった不便なところであった。

ところが昭和55年に「JR東戸塚駅」が開業して一躍便利なところになり今では戸塚における高級住宅地に変身した。

特に四丁目付近は「JR東戸塚駅」まで徒歩7～8分という至便なところ

ろである。

さらに環状2号線の開通により交通アクセスも整備され西にも東にも容易に行ける今日、昔の不便さがウソのような変身ぶりである。

また日常生活でもJR東戸塚駅東口にある「ダイエー東戸塚店」「西武百貨店」などの商業施設が庭先にある感じでそれでいて、先に述べたように南側には「平戸果樹の里」というのどかな田園風景もありと、いわゆる「住んでみたい街」の上位にあるのもうなずける街である。